

平成25年度収蔵作品(受贈)

平面:縦×横

立体:高さ×幅×奥行き

| No | 作家名   | 作品名          | 制作年   | 寸法(cm)     | 材質・技法                               |
|----|-------|--------------|-------|------------|-------------------------------------|
| 1  | 小山田二郎 | シャンデリア       | 1975頃 | 51.2×36.0  | 水彩・紙                                |
| 2  | 秋山泰計  | 同行二人         | 1970  | 90.0×63.0  | 木版・紙(ed.3/20)                       |
| 3  | 秋山泰計  | 鳥をねらう猫を抱く少女  | 1976  | 84.0×43.0  | 木版・紙(ed.2/50)                       |
| 4  | 秋山泰計  | 手品           | 1984  | 83.0×55.0  | 木版・紙(ed.2/20)                       |
| 5  | 秋山泰計  | 夢の旅Ⅱ(象・鬼牡丹)  | 1985  | 90.0×185.0 | 木版・紙(ed.2/20)、(三部作)                 |
| 6  | 秋山泰計  | 夢の旅Ⅰ(群鳥)     | 1985  | 91.1×181.8 | 木版・紙(1987年秋山泰計遺作管理会刷 ed.5/30)、(三部作) |
| 7  | 秋山泰計  | 夢の旅Ⅱ(象・鬼牡丹)  | 1985  | 91.4×182.0 | 木版・紙(1987年秋山泰計遺作管理会刷 ed.5/30)、(三部作) |
| 8  | 秋山泰計  | 夢の旅Ⅲ(富士見逆さま) | 1985  | 91.1×181.6 | 木版・紙(1987年秋山泰計遺作管理会刷 ed.5/30)、(三部作) |
| 9  | 福島秀子  | 五月の振動Ⅳ       | 1986  | 97.0×162.0 | アクリル・カンヴァス                          |
| 10 | 福島秀子  | (題名不詳)       | 不詳    | 76.7×56.7  | 水彩・紙                                |
| 11 | 福島秀子  | (題名不詳)       | 不詳    | 56.5×75.8  | 水彩・紙                                |
| 12 | 柴田善登  | 自画像          | 不詳    | 33.1×24.0  | 油彩・カンヴァスボード                         |
| 13 | 柴田善登  | 常磐・綴         | 1948  | 18.5×25.2  | 鉛筆・紙                                |
| 14 | 柴田善登  | 人物(1)        | 1949  | 30.8×23.2  | 鉛筆・紙                                |
| 15 | 柴田善登  | 人物(2)        | 1950  | 36.4×26.0  | 鉛筆・紙                                |
| 16 | 柴田善登  | 水上ホテル(1)     | 1958頃 | 24.5×35.5  | 鉛筆・紙                                |
| 17 | 柴田善登  | 水上ホテル(2)     | 1958頃 | 24.5×35.5  | 鉛筆・紙                                |
| 18 | 柴田善登  | 水上ホテル(3)     | 1958頃 | 24.5×35.5  | 鉛筆・紙                                |

◇小山田二郎(おやまだじろう):1914年中国の安東県生まれ。東京の根岸で育つ。自己を含めた人間存在を深く問い詰めた絵画は戦後日本美術史で高く評価されている。豊かな色彩表現をみせる水彩画は小山田の画業を語るに欠かせない大きな成果である。

◇秋山泰計(あきやま たいけい):1927年高松市生まれ。風刺の効いた人間描写、ポジとネガが反転するエッセイ的な画面構成など、独自の木版画の世界を展開する。また、紙による立体造形「おびからくり」を発案するなど、版画家としてだけではとらえきれない人生を歩む。

◇福島秀子(ふくしま ひでこ):1927年東京生まれ。戦後日本美術史のなかで大きな役割を果たした「実験工房」の結成メンバーのひとり。グループの一員として幅広い活動をするが、1950年代後半以降は抽象の仕事で実績を残す。緊張感みなぎる画面の本作品は、福島の1980年代の充実した仕事として評価できる。

◇柴田善登(しばた よしと):1910年大宰府生まれ。1931年旧制磐城中学校に赴任。美術部の指導者として活躍し、若松光一郎、鈴木新夫など、後に美術家をを目指す生徒たちに影響を与える。また、教え子の卒業後も交流を大事にする。1970年新制作協会会員に推挙。